

堀江中学校 校長室だより

令和5年度 No.33

さくら



令和6年1月22日(月)

がんばれ自衛隊



能登半島地震発生から4週間目に入りました。被災地では、今なお被害の全容が分からずの状況です。人が生きていかなければなりません、水や食事も十分に行き渡っていない状況があると報道されています。また、皆さんと同じ中学生が、一時的に避難している状況は報道のとおりです。

始業式と先週の全校集会で、消防・警察・自衛隊などが、被災地の最前線で活動していることを伝えました。とりわけ自衛隊は、県知事の要請を受け被災地での活動にあたっています。皆さんにとって、消防や警察は身近な存在です。しかし、自衛隊はそうではないかもしれません。

今回の災害派遣でも、給食支援、給水支援、孤立地域への物資輸送、被災地のニーズ把握、巡回診療など、数多くの任務にあたっています。

そこで、今回は災害時の自衛隊の活動に焦点をあてます。2011年、ジャーナリストの桜林美佐さんが『日本に自衛隊がいてよかったです』（自衛隊の東日本大震災）（産経新聞出版）を出版しました。この本のある章に、福島第一原発での自衛官の命をかけた行動が記されていました。若い自衛官が言いました。

「独身だから、家族持ちの先輩ではなく、自分を（原子炉の冷却作業に）行かせてください」このような発言が多くの隊員から聞かれたそうです。この言葉で表されるように、放射線の恐怖と闘いながらも、決死の覚悟で任務にあたる自衛官の姿が描かれています。

また、以前、陸上自衛隊の幹部（陸将補）と話をさせていただいた時、次のように言っておられました。「国民の生命と財産を守るのは私たちの使命です。だから、どんな状況でも克服できるよう、日頃から訓練をしているのです」この言葉を聞いた時、自衛官の使命の重さを感じずにはいられませんでした。今回の大地震においても、陸・海・空の自衛官は被災地の最前線にいます。その活動のようすは、YouTubeでも公開されています。

自衛官は、日頃の訓練で培われた確かな技術と、「他を生かすため」の強い使命感をもって最前線で活動しています。このような自衛官の姿に頭が下がります。決して目立つことはありませんが、いざという時、私たちを守ってくれる組織の存在を知ってほしいという思いから、今回の「さくら」を書きました。

学校ホームページで、日々の教育活動のようすを公開しています。どうぞ、本校ホームページを閲覧してください。

